

「あいちエコ通勤転換促進講演会」 2010/03/15

豊田市エコ通勤をすすめる会 の取り組みについて

【豊田市エコ通勤をすすめる会事務局】

豊田商工会議所

(財)豊田都市交通研究所

藪押 光市

山崎 基浩

はじめに

- 豊田市では通勤時の道路交通渋滞が深刻な問題。
- 平成5年度から社会実験を中心にTDM施策を展開。
- 平成8年度には「豊田市TDM勉強会(のち研究会)」設立し、通勤時の混雑緩和のためにソフト的な取り組みを実施。

- 「社会実験」では一定の成果を得られたが…。
- TDM研究会は「社会実験の調整」「おつきあい」の場？

事業所主体の取組

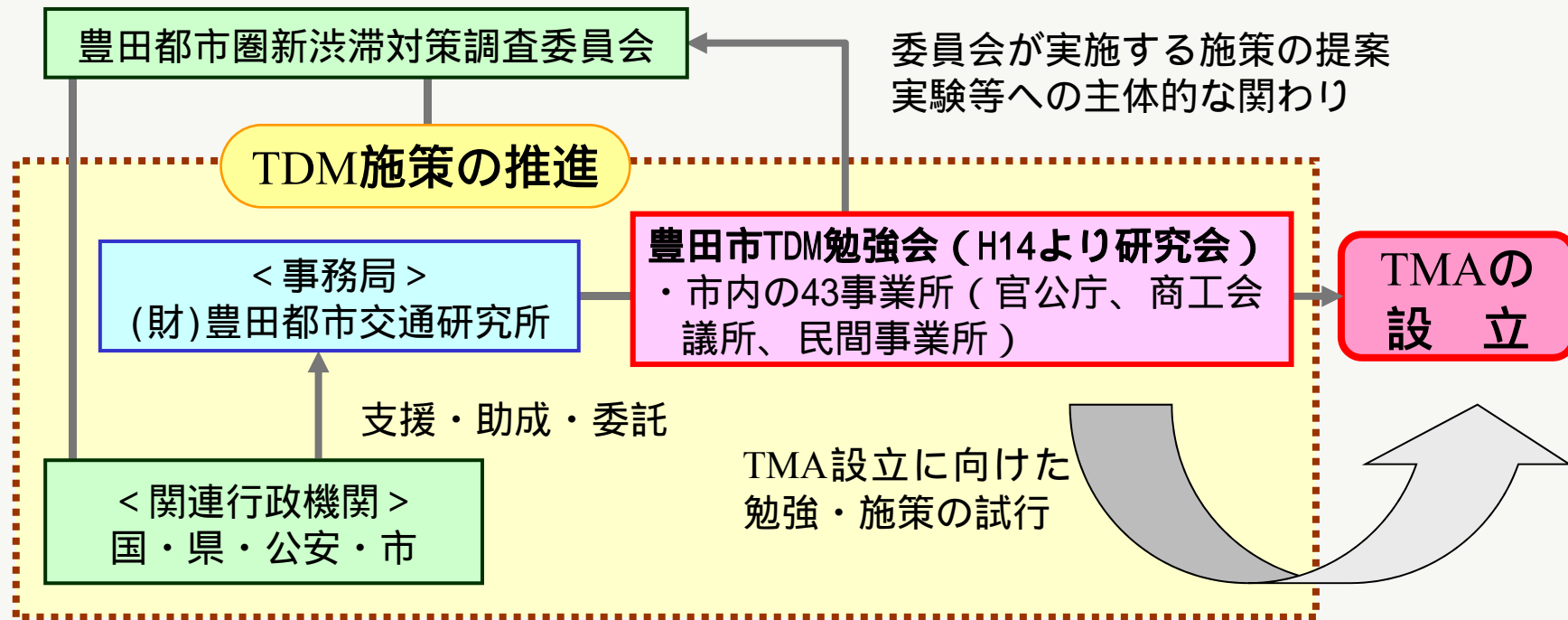
持続可能な取り組み

事業所固有の通勤制度

- TDM研究会を解散し、「事業所が主体的にエコ通勤に取り組む」ことを目指して「**エコ通勤をすすめる会**」を設立。
- 本日の発表では、この経緯と現状を報告する。

豊田市TDM研究会の概要

〔発足当時の枠組み〕



- H7年度の社会実験に参加した43事業所で構成。
- 将来的にはTMA (Transportation Management Association; 交通マネジメント協議会) の設立をめざした。



豊田市TDM研究会の取り組み概要

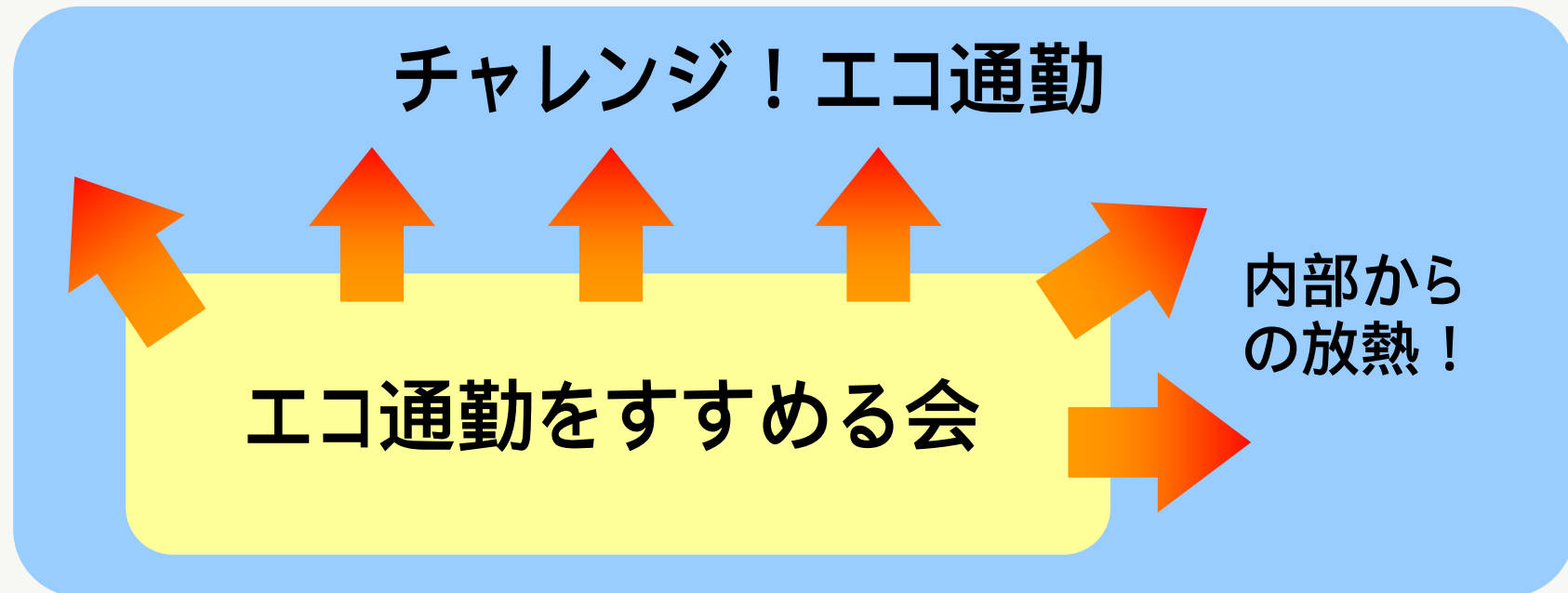
H8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ TDM勉強会設立 ・ 豊田市の交通と渋滞に関する 市民アンケート調査の実施
H9 ~ 10年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な施策メニューの提案と絞り込み→ 「公共交通機関利用の日」を検討
H11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他都市の先進事例（金沢市）の紹介（金沢市の市民団体代表による講演） ・ 都心部事業所での「TDMの日」試行（2月）
H12 ~ 13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「TDMの日」の継続的な実施、商店街との連携 （毎月第3水曜日にマイカー通勤を控えることを呼びかける）
H14年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ TDM勉強会をTDM研究会に名称変更 ・ 「TDMの日」を 「のりあいエコデー」として、毎月第1、第3水曜日に拡大。
H15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員事業所の取り組み（通勤シャトルバスの運行；トヨタ自動車） ・ 時差出勤の検討、 「のりあいエコデー」の拡大検討
H16年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地・トヨタ本社地区通勤者によるTDM社会実験 （約6,200人が参加し、11月18～22日の実験期間中マイカー通勤を控える。）
H17年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ TDM社会実験「チャレンジECO通勤」 （愛知環状鉄道沿線4市においてWeb-TFP通勤交通MM実施。1,660名が参加。）
H18年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「チャレンジECO通勤」取組みの継続（NEDO補助事業） （Webシステムの改良と一般開放。歩数計を配付し健康面での動機付け。事業所単位での参加を要請し、1,256名が登録）

- ・ H8～18年の11年間に24回の会議を開催。
- ・ TDMの勉強と社会実験実施の調整協議の場として機能。

TDM研究会の取り組みの成果と問題・課題

- 官民協働の議論の場がつけられた
 - 事務局と事業所との温度差
 - 社会実験実施の調整協議の場に止まる
- TDMという概念、手法を普及
 - 特定の参加事業所に対してのみ？
 - 事業所自らの取り組みは？
 - 従業員にとっては、事業所の通勤制度もネックとなっている
- 少数ながら、主体的に取り組もうという事業所が出現
 - やる気のある事業所を牽引役に！

課題を踏まえた方針



- 「チャレンジ！エコ通勤」

事業所がエコ通勤への取組を宣言、WebでPR。→ 広く浅く

- 「エコ通勤をすすめる会」

主体的・具体的な取組意志を持つ事業所。→ 少数精鋭で深く

「エコ通勤をすすめる会」の設立

【目的】 産官の共働によりエコ通勤を推進し、豊田市内の道路交通混雑の緩和や公共交通の利用促進、環境負荷の軽減を図ることを目的とする。(各事業所が主体的・自主的に取り組む)

【会 長】 名古屋産業大学教授 伊豆原浩二

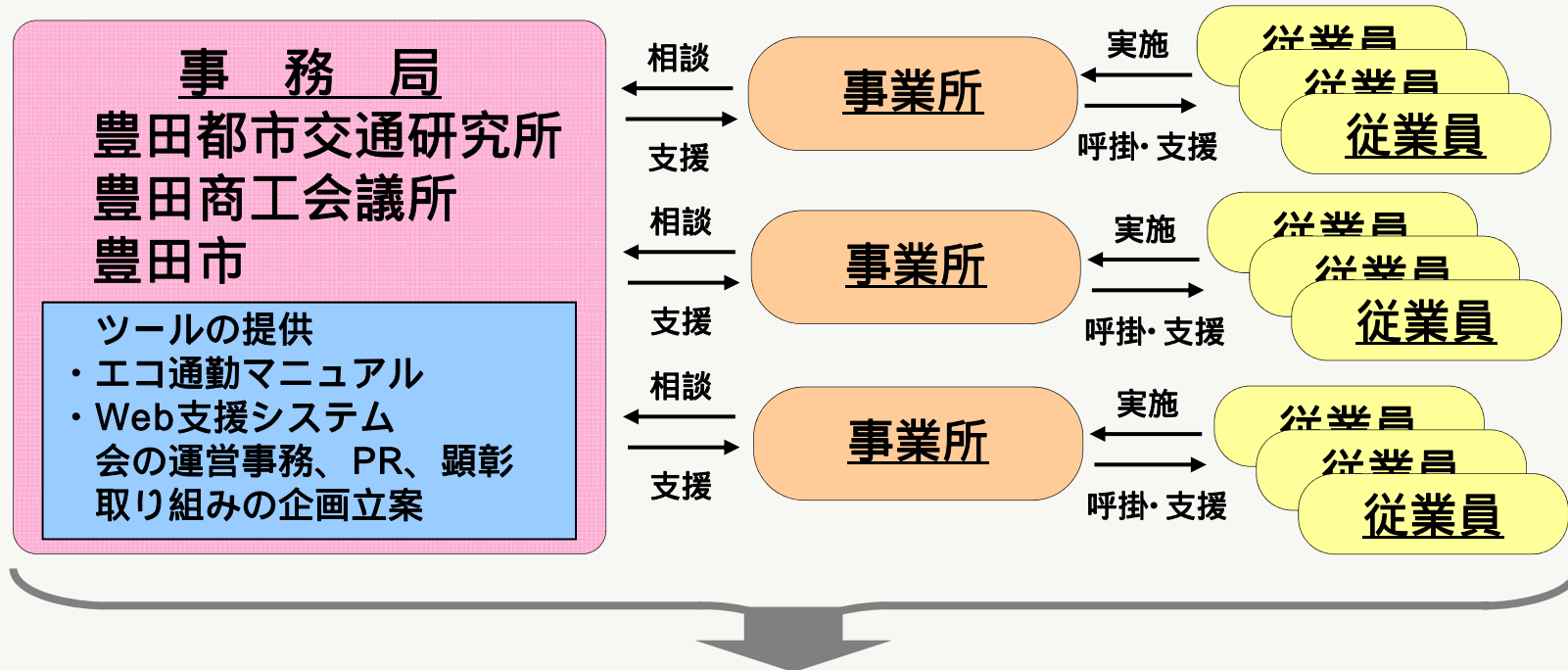
【副会長】 豊田商工会議所常務理事 永田勇夫

【事務局】 豊田市交通政策課, 豊田商工会議所, (財)豊田都市交通研究所

【参加条件】

1. 事業所の参加登録シートの提出。(意思の確認)
2. 原則として、豊田市内の事業所を対象。
3. 具体的な通勤問題(駐車場不足、交通渋滞等)を抱え、対策を実施、または実施したいと考えている。
4. 事業所として、通勤問題の解決に向けた意欲がある。
5. 3ヶ月に1回程度開催の会議へのご出席が可能。
6. 自社の取り組みを会議で公表できる。

「すすめる会」事務局体制と役割



事業所主体の取り組みとして、エコ通勤の普及を推進

- 研究所：企画、事務作業、調査・分析、研究への展開
- 商工会議所：事業所窓口、企業経営者への啓発
- 豊田市：政策への位置付け、制度的支援、公的事業への反映

推進体制の特徴

【行政主導ではないことのポイント】

- 事業所に「当事者意識」を醸成する
→ 自ら自社固有の対策を検討。
- まずは事業所内での推進体制を整えるために
→ 行政では民間事業所をまとめきれない。
→ トップダウンが推進を加速する。
→ 商工会議所の声は企業トップに届きやすい。

【専門組織の参画】

- 最新情報の収集、推進のノウハウ、調査・分析、学会等への情報発信によるPRと技術研鑽
→ 豊田市にはTTRI(他自治体もサポートします)
→ コンサルタント、NPOの活用

「エコ通勤をすすめる会」会員の募集

51事業所に案内書簡を送付

- TDM研究会会員
- 「チャレンジ！エコ通勤」参加事業所
- その他、鉄道利用可能な大規模事業所

- 7事業所から回答。
- 「すすめる会」への参加希望は3事業所。

電話および訪問によるフォロー

- 未回答事業所のうち、「駅が近い」「大規模」などの条件から参加の可能性が高い16事業所にフォロー。
- うち7事業所は個別訪問。

- 事務局フォロー未実施の6事業所も含め、12事業所から参加表明あり。

商工会議所での“念押し”

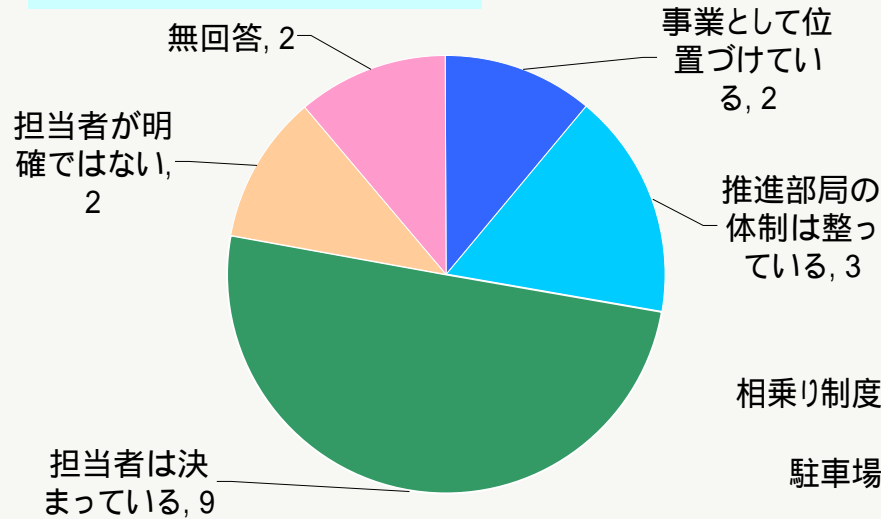
- 常議員会でPR。会頭から重要性訴える。
- キーとなる22事業所に案内書簡を送付。

- 3事業所が参加表明。

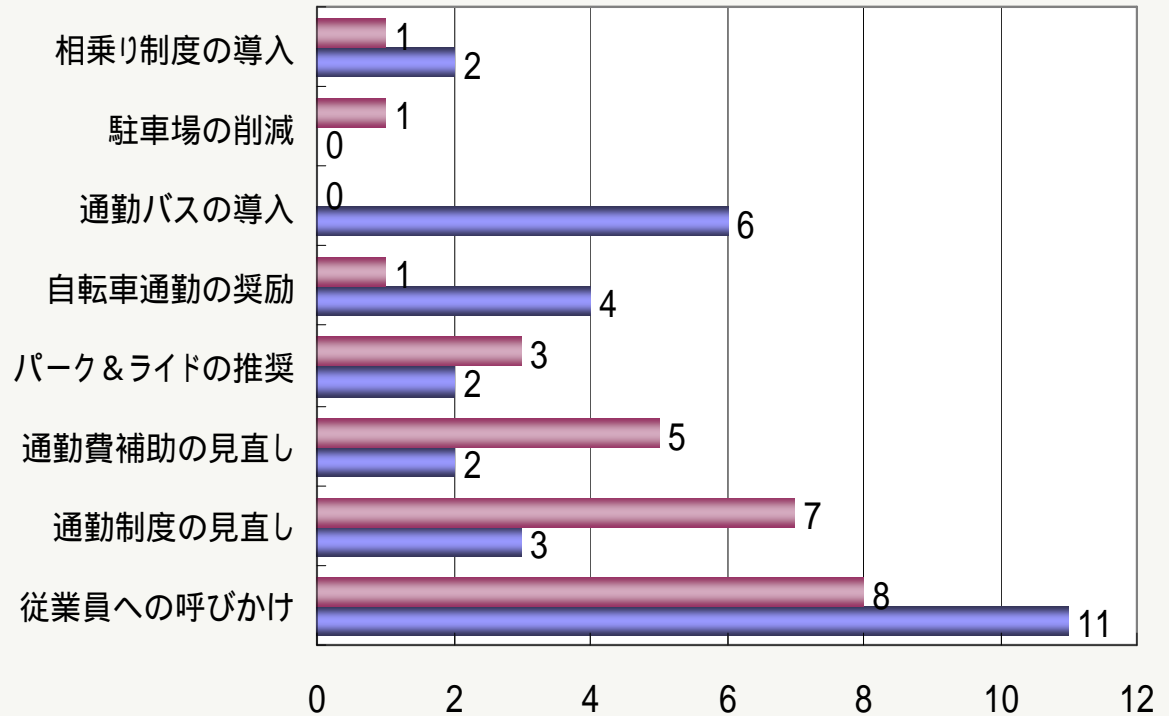
- 事務局(市役所, 商工会議所, TTRI) 含め、合計21事業所で設立。

参加登録シートによる調査

推進体制は？



どんな取り組みを？

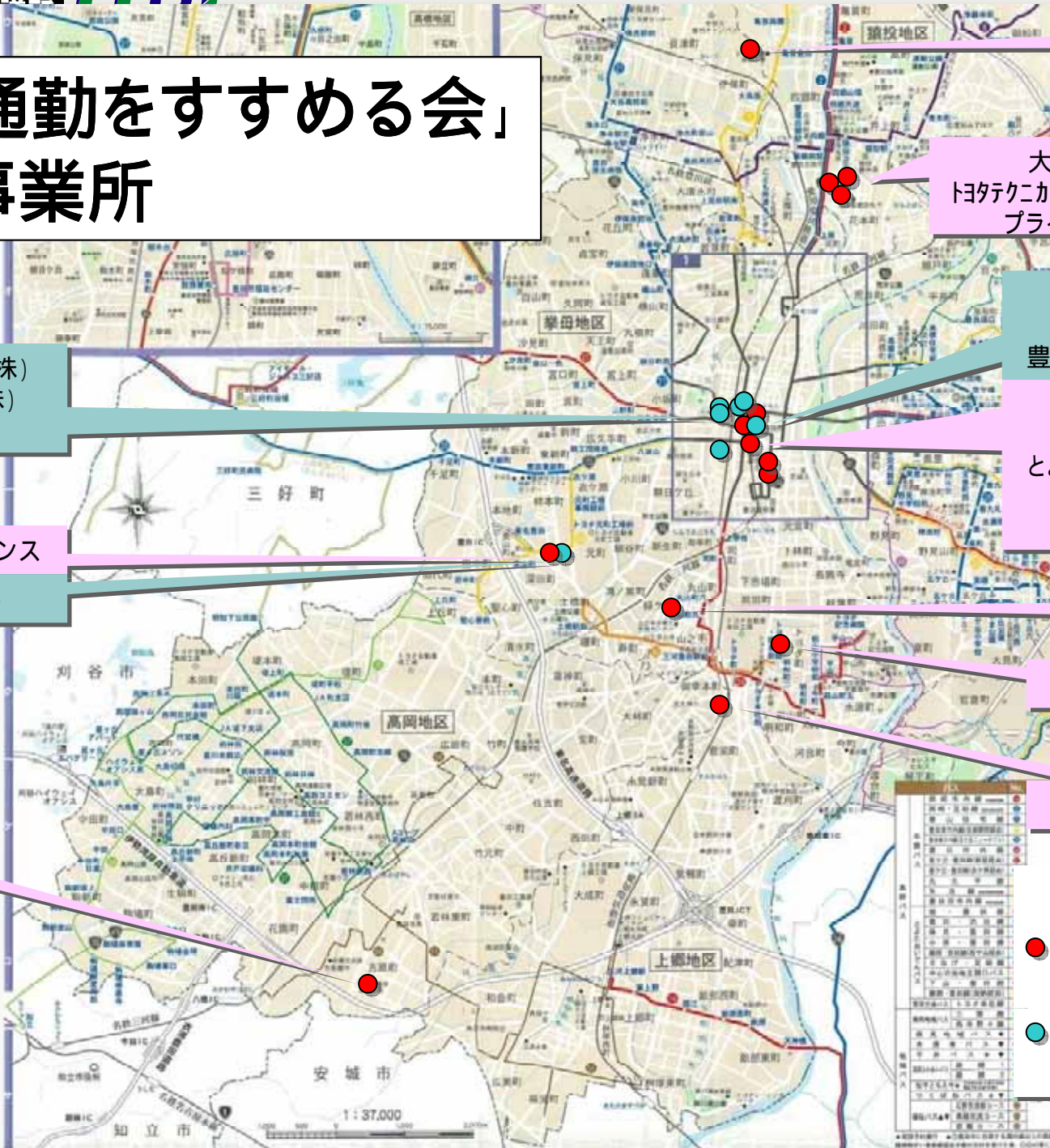


「すすめる会」への参加希望18事業所以外に、「チャレンジ！エコ通勤」への登録のみ9事業所。
→うち2事業所は単独で積極的にエコ通勤取り組み中。他はやや消極的。

■ 今後取り組みたいエコ通勤の取り組み内容
■ 現在実施中のエコ通勤の取り組み内容



「エコ通勤をすすめる会」 参加事業所



トヨタ紡織(株)

大豊精機(株)
トヨタテクニカルディベロップメント(株)
プライムデリカ(株)

豊田市役所
豊田商工会議所
豊田都市交通研究所

あいち豊田農協
ジャスコ豊田店
とよしんビジネス(株)
豊田信用金庫
(株)山田屋

愛知環状鉄道(株)
名古屋鉄道(株)
名鉄バス(株)

(株)ユーネットランス
豊栄交通(株)

大豊工業(株)

トヨタ自動車(株)

トヨタ車体(株)

トヨタ生活協同組合

凡例

- 一般事業所
- 交通事業者
公共団体等

第1回 エコ通勤をすすめる会

【開催日】平成20年12月5日

【会議内容】

1. 趣旨説明

- ・環境モデル都市について
- ・これまでの取り組みについて
- ・会の趣旨説明

2. 会の規約について

3. 会員の自己紹介

- ・各事業所の取り組み、抱負

4. 「エコ通勤」に関する情報提供

- ・他都市での取組みの紹介
- ・「参加希望連絡書」のアンケート結果
- ・豊田商工会議所の『環境行動計画』(案)
- ・豊田市の考えるパークアンドライド駐車場の仕組み(案)

5. 今後の進め方について



- ・事務局含め、19事業所が出席。
- ・これまでの取り組み、会の趣旨を説明し、他都市の事例を紹介した。

第2回 エコ通勤をすすめる会

【開催日】平成21年3月5日

【会議内容】

1. 会の規約改定について
2. 「環境モデル都市」について
3. 前回の意向調査結果まとめ
4. サブワーキングでの検討(案)
5. 情報提供(「エコ通勤」に関する事例紹介)
6. 今後の予定(案)
7. その他(報告事項)

- 事務局含め、12事業所が出席。
- 討議のネタとして、事前に意向調査を実施。
- この調査の結果を示し、それに基づきサブワーキングで検討する具体的な内容、グループ分けの案を提示した。
- 情報提供としてエコ通勤事例の紹介も実施。



参加事業所への調査

- 第2回に向けた「宿題」として、意向調査実施。
- 「すすめる会」に何を求めるか？どんな会にしたいか？
- サブワーキングでは具体的にどんな方策を検討したいか？（**直面している問題、実施したい通勤対策**）

今後の「エコ通勤をすすめる会」の進め方（第1回エコ通勤をすすめる会資料 20 ページ（スライド 39,40））について、下記の選択肢からお選びください。

【すすめる会の進め方への意見】（いずれかひとつの番号に○を付けてください）

1. 意見は特にない
2. 意見あり（下欄の選択肢（1～7）をお選びください）

【進め方への意見の内容】（あてはまるもの全てに○を付けてください）

1. ①全体討議を充実してもらいたい
2. ②事例報告を充実してもらいたい
3. ③サブワーキングを充実してもらいたい
4. ①全体討議は縮小してもよい
5. ②事例報告は縮小してもよい
6. ③サブワーキングは縮小してもよい
7. その他（下記にご自由にご記入ください）

サブワーキングで議論したい内容（貴事業所において、通勤で困っていること、通勤対策として実施したいこと、その他の内容）を下記の選択肢からお選びください。

【通勤で困っていること】（困っていること全てに○を付けてください）

1. 困っていることは特にない（1. に○を付けた場合は、本欄の他の番号に○を付けないでください）
2. 駐車場が不足している
3. 近隣が渋滞している
4. 公共交通が不便
5. 通勤制度見直しが困難
6. エコ通勤を推進する社内の体制が不十分
7. その他（下の【その他の内容】欄にご記入ください）

【通勤対策として実施したいこと】（実施したい内容の上位3つの番号に○を付けてください）

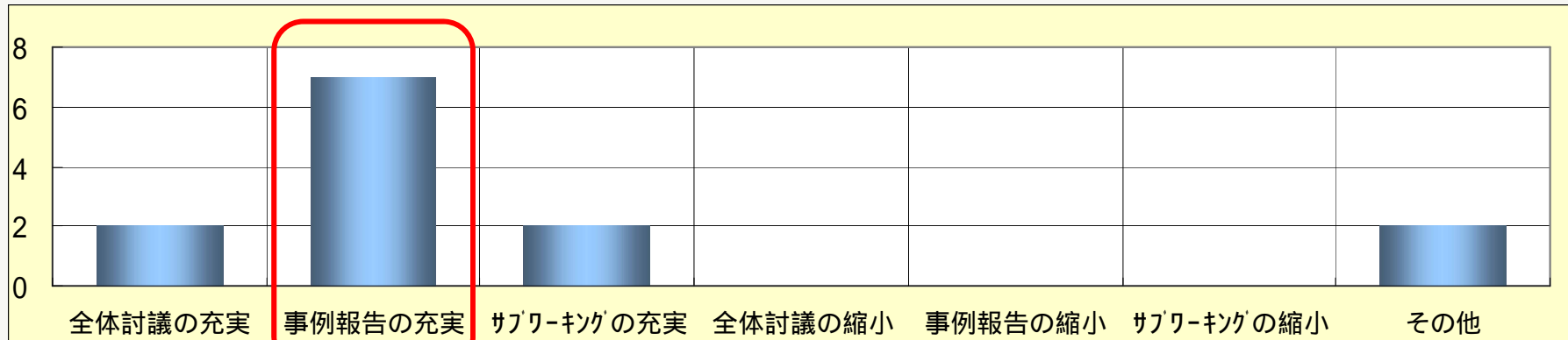
1. 通勤手当・通勤制度の見直し
2. パーク&ライドの推進
3. 通勤バスの運行
4. 自転車通勤の推進
5. 時差出勤の導入・実行
6. 相乗りの推進
7. 従業員への呼びかけ
8. 近隣事業所との共同実施
9. 交通事業者との連携
10. その他（下の【その他の内容】欄にご記入ください）

【その他の内容】（本欄にご自由にご記入ください）

貴事業所名		ご担当者名	
		お電話番号	

参加事業所の意向調査結果

「エコ通勤をすすめる会」の進め方(内容)について

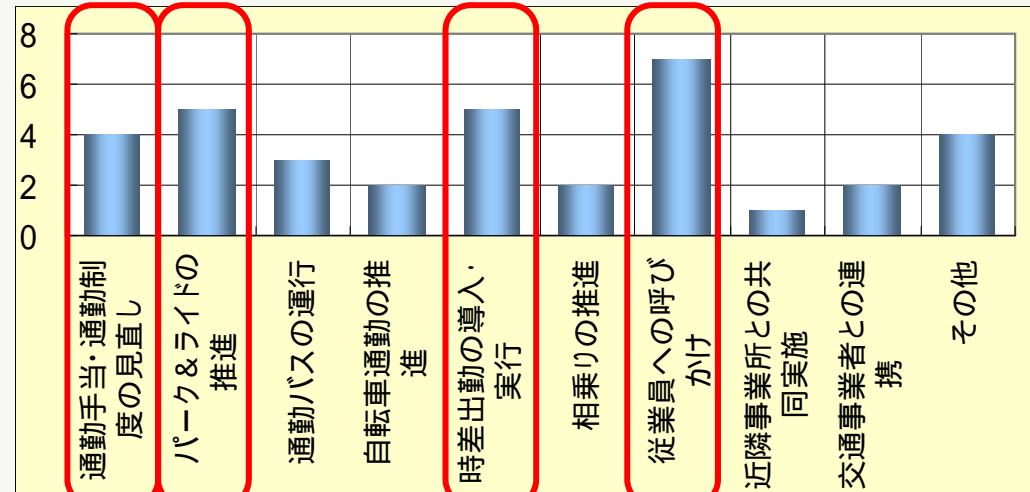
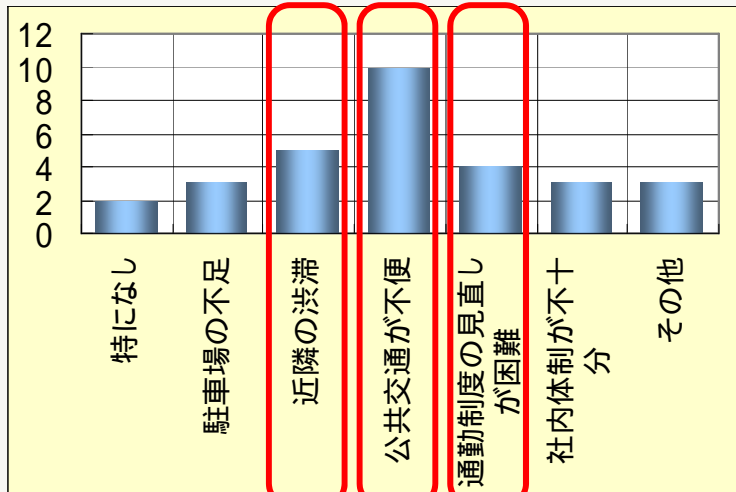


【その他自由記述意見】

- エコ通勤対策の推進期間は盛り上がるが、期間が終了すると施策がストップし、盛り上がりつつある意識も低下してきた。
基本計画に基づく長期的に推進が必要
市民が一体となった交通政策を希望
- 開催目的(具体的テーマや議論の落としどころ)を明確にした、全体会議、サブワーキングの実施を希望。
- 会議を進める中で、内容について討議できれば良い。

参加事業所の意向調査結果

直面している問題、実施したい通勤対策



【その他自由記述意見】

- 中小企業は単独で送迎バス運行困難。企業間及び地域も含めた交通施策を希望。
企業間共同運行、市施策の地域交通(路線バス、鉄道)との連携など
- 駅からの通勤バスの利用者が増加し、一般の駅利用者および他のバス送迎実施事業所通勤者への影響を懸念。
関係者の意見を参考に利用駅の変更も含めて検討
- 社員寮～業所間に利用できる公共交通機関が無い場合、自動車通勤。
他社の事例を参考に、独身寮の通勤バス運行を検討

意向調査のまとめと運営の方針

(1) 会の進め方(内容)について

全体適に内容の「充実」を希望。
特に事例報告の充実が求められている。

(2) 直面している問題(通勤で困っていること)について

「公共交通機関が不便」、「近隣の渋滞」、「通勤制度の見直し」という回答が多い。公共交通が使いやすい事業所、使いにくい事業所が混在しており、取り組むべき課題が異なる。

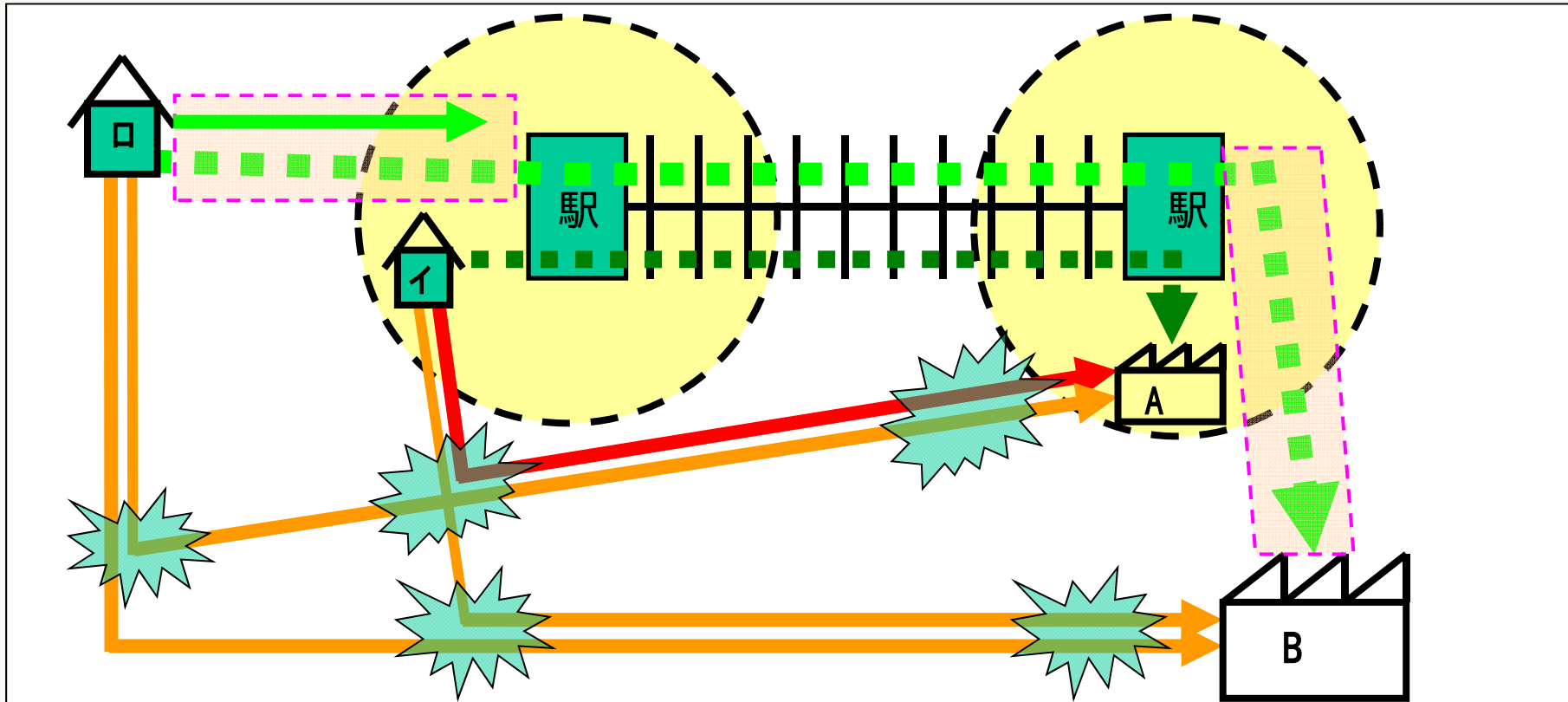
(3) 実施したい通勤対策

「従業員呼びかけ」、「パーク&ライド」、「時差出勤」、「制度見直し」という回答が多い。「呼びかけ」、「制度見直し」をベースに、公共交通の利用促進、車のかしこい利用を目指す。

サブワーキングでの検討

- ・公共交通が「使える事業所」と「使いにくい事業所」で検討。(立地により実現可能な対策案が異なる)
- ・「従業員への呼び掛け」「制度見直し」は共通課題。
さまざまな情報(事例、手法など)が求められている
- ・全国の先進的な事例について勉強。
- ・会員事業所間で取り組みのノウハウを共有。

具体的な検討(ワーキンググループ)



- 駅に近い事業所Aグループは従業員居住地側の対策を、駅から遠いBグループは事業所側の対策を検討。

<凡例>

-----▶	:マイカー以外
————▶	:マイカー
★	:渋滞箇所
-----	:検討箇所

第3回 エコ通勤をすすめる会

【開催日】平成21年5月22日

【会議内容】

1. エコ通勤マニュアルのおさらい
2. グループ討議の進め方
3. グループ討議(2グループで)
4. 討議結果の発表(全体会)
5. 講評(会長・副会長)
6. その他(今後の予定)

- 事務局含め、12事業所が出席。
- 事業所立地条件によりグループ分け → ワークショップ。
- まずは共通認識を持つために、フリーディスカッション(KJ法)。



ワークショップの結果

【エコ通勤している人・していない人のワケ】

エコ通勤していない理由

- ・公共交通が不便。
- ・クルマ以外、頭がない。
- ・クルマに慣れている。
- ・雨や荷物があると、クルマが便利。
- ・業務でマイカーを使う。
- ・メリットがない。

エコ通勤している理由

- ・公共交通利用の環境が整っている。
- ・自転車が最速、かつ雨なら公共交通使える。
- ・徒歩、自転車の楽しさ。
- ・公共交通に慣れている。
- ・時間が正確。

公共交通の実態

- ・バスが不便（便数、路線、時間帯、運賃）。
- ・バス路線の存在を知らない人が多い。
- ・バスは遅れる。
- ・運賃が高い。

【事業所としての問題】

エコ通勤の障壁

- ・社内のエコ通勤への意識がまだまだ低い。
- ・勤務が深夜に及ぶ。
- ・クルマの方が通勤手当の負担が少ない。
- ・業務用車両が不足。
- ・駐輪場や更衣室未整備。
- ・クルマ通勤の環境を整えている。

なぜエコ通勤すべきか？

- ・駐車場の確保ができない。
- ・近隣住民への迷惑問題。
- ・法人としての環境への取り組み。

どうしたら促進できる？

- ・従業員のメリット、会社のメリットを。
- ・従業員の自主性→意識改革を促すPRが必要。
- ・公共交通を使いやすくする（便数、路線、時間帯、運賃）。

事業所として、何ができるか？

〔第4回「すすめる会」までの宿題 → 持ち帰って検討〕

具体的な取り組みの検討

事業所での検討体制(担当部署, 担当者)

取り組みの姿勢と具体的数値目標

エコ通勤(マイカー通勤からの転換が原則)
を促進するための方策の検討結果

すぐにできること(年度内 or 来年度初)の検討結果

「すすめる会」会員事業所間が協力して実施できそうな対策の検討結果

「第4回すすめる会」に向けて、上記項目を各事業所で検討。

第4回 エコ通勤をすすめる会

【開催日】平成21年8月20日

【会議内容】

1. 事務局からの情報提供

エコ通勤優良事業所認定制度(国土交通省)の紹介
低炭素型交通システムの構築に向けたグリーンモビリティ
実証モデル事業について

2. 各社エコ通勤の取り組み報告と討議

3. 講評(会長、副会長)

4. その他(報告事項)

- ・ 事務局含め、11事業所が出席。
- ・ 各社からの報告など全体討議をした。

各社の最近の取り組み状況のまとめ

1. 公共交通事業者としての取り組み内容

- 沿線企業や学校に対して、公共交通利用促進のためのPRや調査を実施し、連携を呼びかけた。
 - ・ バス通勤促進(乗り方)チラシの配布
 - ・ 通勤通学のアンケート調査を実施
 - ・ エコ通勤啓発ポスターを各事業所内に掲出

2. 一般企業の取り組み内容

- 個人の意識向上を図り、公共交通機関への転換を促進する
- 「エコ通勤推進内規」を制定し、取り組み姿勢を制度化
- エコ通勤対象職員の把握と参加の可能性を調査
- 出社ピーク時間帯の出勤者に対して時差出勤を促進
- 近距離通勤者への自転車通勤推奨と手当での増額検討
- 近隣地区への駐車場移転(シャトルバスの運行)

第5回 エコ通勤をすすめる会

【開催日】平成21年12月7日

【会議内容】

1. 事務局からの情報提供

自転車共同利用実験について

2. エコ通勤促進のためのバスの活用検討

(1) バス事業者からのエコ通勤の提案

路線バスでエコ通勤

地球にやさしい エコ通勤の展開

(2) 路線バスでエコ通勤するための全体検討

3. 講評(会長、副会長)

4. その他(お願い)

グリーンモビリティプロジェクトについて

- 事務局含め、12事業所が出席。
- バス事業者(2社)からの提案をもとに全体で討議した。

バス事業者の提案に対する一般事業所の意見

- バス停を企業正門付近に設置 → エコ通勤促進に加えて、ごみや騒音問題に対して、民家前に設置するよりもメリットがあるのではないか。
- バス停の副名称に企業名 → 会社のPRになる。
- 実験的にバス停を増やすような取り組みを。
- 道路交通、土地利用の実態に合わせた路線見直しも必要。
- 定時性、速達性確保 → 幹線道路にバス専用レーン設置
- 定期の共同利用、バスカードのメリットなど、既に実施されている取り組みのPRが不足している。
- 利用者の多い既存路線のサービス向上も大切。

まとめ(今後の展開と課題)

- 事業所自らが考え、アクションを起こすことをサポートしてゆく。→ やや行き詰まり感？
- モチベーション向上のために
→ 会員が連携した取り組みの具体化、評価の仕組み(PDCA)づくり、活動のPR
- 先行して取り組む事業所を前面に。
→ すすめる会立ち上げと並行して実施した、トヨタ紡織のMM (4th JCOMM PB27)
- 参加事業所が国土交通省, エコモ財団の「エコ通勤優良事業所」に認証されるべく。
→ 豊田市では業務委託業者選定の加点に



ご清聴、ありがとうございました。

